

平成20年度 山梨県職業能力開発審議会第3回プロジェクト

チーム会議（以下、「PT会議」という。）

議事録

議長：それでは議事に入ります。議題1の前に「技能五輪全国大会を通じた技能振興について」を事務局から説明をお願いします。

事務局説明

事務局：技能五輪全国大会に向けた検討会を設置しまして、大会に向けた調査・研究を行っていくことにつきましてご了承いただきたい。今年度会議を数回開催しまして、明年度以降も継続することとしています。組織体制につきましては、県職業能力開発協会と打合せしながら進めていきたいと思っております。

議長：大事なことでありますので、準備期間として調査・研究を行っていききたいと思えます。是非、審議会でもご協力をお願いします。よろしいでしょうか。

委員：了解。

議長：それでは、議題1の職業能力開発施設のあるべき姿について、事務局から説明をお願いします。

事務局説明

議長：ただいまの説明につきまして、ご意見等をお願いします。

委員：本校においても機械、電気、電子については5倍程度の求人がありますが、学科によってはミスマッチがあるものもあります。企業訪問をする中で、本県には高等専門学校がない、そこで、産業技術短期大学（以下「産短大」という。）の学生を採用したいがなかなか採れないので工業高校生を採って育てているという話がありました。さらに、都留高等技術専門学校（以下「都留技専」という。）については学科構成のミスマッチ等があり欲しい人材がない。また、地元で育てて地元就職させたいが、東京の専門学校に出してしまうとのことでした。学生が外に出ないよう、地元産業の活性化が必要であり、ミスマッチがないような環境づくりが必要と感じました。

議長：ミスマッチの話しがありましたが、連携はどうなっていますか。

事務局：産短大と工業系高校との連携策を検討しています。来年度から実施できるところから実施していく予定であります。

議長：都留技専との連携はどうするのですか。

事務局：耐震化や建て替え等があるので、今後検討していくこととなります。審議会でその方向性を取りまとめていただきたいと考えております。

議長：施設のあり方ということでありますと、ソフトとハード両面について議論していきたいと思えます。どなたかご意見等ございますか。

委員：都留技専では、現在のところ工業系高校と連携はほとんどありません。しかし、教員の研修ができないか等の連携について検討しているところであります。

議長：省庁が違うから難しいのでしょうか。

事務局：職業能力開発施設は在職者のみならず、離転職者も対象に考えながらマッチングしていくか検討する必要があります。ものづくり系でないパソコン系などの分野も考えた中での取りまとめをお願いします。

議長：今後どのような方向で進むべきか、大変難しいと思われれます。他にご意見等ございますか。

委員：産短大と工業系高校、高等技術専門校（以下「技専」という。）と工業系高校の連携についてであります。午前中の視察での話しですが、工業系高校に機械設備がないから生徒が学べないのであれば、是非、技専の機械設備を使えるよう連携をしていただきたい。工業系高校にそういった機械設備が入れば理想ですが、財政的な面もあるでしょうから、連携も必要であると感じました。

委員：地域的なことを考えれば連携は必要と思われれますが、技専は雇用に結びつく職業訓練が主ではないかと感じています。高校との連携は企業ニーズとマッチングすることが重要と思われれます。

事務局：各委員から連携の話しをいただきましたが、見直しスキームの資料をご覧ください。この資料は、どのような方向性で報告書を作っていたかかを説明させていただくものです。（見直しスキームの内容説明）現在の訓練科目がニーズに合っていないければ、統廃合を含めた再編について検討し、まとめさせていただいて、次回、報告書の内容について

てご議論いただきたい。もう一つは、ニーズがあれば直営か民間に委託して行うのか等洗い出して、どの方向性がよいのかをご検討いただきたいと考えています。さらにステップ3であります。あり方とビジョンを検討するにあたってのイメージ等について、ご意見として報告書に盛り込ませていただきたいと考えております。「統廃合」、「誰がやるのか」、「高校との連携方策」の3つの柱を報告書でまとめさせていただきたい。

議長：次回の審議会でたたき台を出していただくということによろしいでしょうか。

事務局：はい。

委員：応募はあるけれど、就職先はない。応募は少ないけれど就職先はあって求人がある場合があります。ニーズをどのように捉えるのか。

事務局：入口と出口を踏まえた中でのニーズということになると考えています。

委員：入口と出口をマッチングさせなければうまくいかないと思います。

委員：質問ですが、見直しスキームの一番下ですが、ニーズはどちらも同じですか。

事務局：はい。より即戦力のある人材が欲しいということでもあります。

委員：地理的に、産短大はここから遠いのですか。

事務局：産短大は、塩山駅のすぐ近くにあります。

委員：都留技専に産短大の機能をつけさせることはできるのですか。

事務局：ニーズがあれば、また、もっと高度化した方がよいということであれば、今後検討していくこととなります。

議長：ここから産短大は遠いと思われませんが、学生は通えますか。

委員：下宿せず通うことは十分可能です。ただ、八王子にも通えますし、むしろ東京方面の方が交通の便は良いです。

事務局：学生は、八王子に出たとしても、最終的には地元就職したいと考えています。産短大の製造系の学生は100%県内就職です。

議長：学卒者だけを見ると、現状では産短大があるので、この役割は必要がないのかも

しれません。あり方を検討していく必要があると思われます。

事務局：3つの柱をまとめさせていただき、報告書として次回会議で説明させていただいた上でご議論いただきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

議長：ただいまの事務局の説明どおりでよろしいでしょうか。

委員：了解。

議長：それでは、これをもって終了したいと思います。ありがとうございました。